

交通安全総点検で事故なしのまちに

中山小学校入口交差点周辺で実施



図面上で危険箇所や改善点を確認



警察、自治会、PTA、交通安全指導員などが合同で実施

6月8日、交通事故の発生が多い国道9号中山小学校入口交差点周辺で、地元自治会代表や小学校のPTA、交通安全指導員など30人が集い、事故ゼロを目指して、交通安全総点検を行いました。

曲松交差点から中尾交差点にかけて直接歩いて危険箇所がないか点検しました。特に、PTAから小学生の登下校中の、ヒヤリ・ハットの事例を聞いたり、交差点の死角になる部分など、直接歩いてみないと分からない点が多くありました。

現地の点検終了後、中山農村環境改善センターに会場を移し、点検した内容や各自気づいた点を付箋に書き道路図面の上に貼って、危険箇所や改善点などを確認し合いました。

最後に、町長が「塩津交差点周辺の交通安全確保のための第一歩が踏み出された。地域住民の皆さんの意見を反映させることができると、行政も努力するので皆さんも協力してほしい」と挨拶をし、会を閉じました。

今後、現地の交通安全のための協議会を立ち上げ、当該交差点周辺の交通安全確保に向けた具体的な取り組みが進められる予定です。

香取でこんにやく芋の試験栽培

本町では、新しい特産品にしようと香取地区でこんにやく芋の試験栽培を行いました。広島市のこんにやく製造・販売会社と、香取地区の農家の間を地方銀行が仲介したことがきっかけで始まり、香取地区の生産組織「香取くろぼく作物部会」が「大山こんにやく芋生産部」を新たに立ち上げ、初年度は12軒の農家が約10アールの試験栽培に取り組みます。

5月26日、生産部会員の鉦谷^{かねた}ミチ子さんのほ場で植え付けが行われ、大山農業改良普及所の田平普及員が種芋の植え方などを説明しました。秋には1トンから2トンの収穫を目指します。生産農家代表の井上静雄さんは「できるだけ栽培面積を増やしてたくさん出荷したい」と話していました。

こんにやく製造会社の原田雅司社長は「地産地消にこだわり、地元で作ったものを地元で食べてもらいたい。適地だと思えるのでこれを機会に西日本一の産地にしたい」と話していました。

